
「夏の海ってどんなところ？」

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「夏の海ってどんなところ？」

【Nコード】

N0851BA

【作者名】

三毛猫

【あらすじ】

麦わら帽子をかぶった雪女が夏の海に想いを馳せる。

【夏の海】 【麦わら帽子】 【雪女】のお題で書かれた掌編です。

以前texpoにて公開していました。現在pixivにても「三毛猫の三題話」の一編として公開中です。

さらさらと降る粉雪が、モミの木に降り積もっていた。なんとなく、下から枝をちよつと引つ張ってみると、雪と一緒に見慣れないものが落ちてきた。

何かの植物で編んだものだ。丸い円盤状になっていて、中心がくぼんでいる。

人差し指をくぼみに入れて、くるくると円盤を回転させてみた。ちよつと面白い。

これは、いったい何だろう？

ちよつと思いついて、円盤を自分の頭にのせてみると、思ったとおりくぼみはわたしの頭にすっぽりとはまった。

冬に生まれて、春には溶けていなくなってしまう雪女のわたしだけれど、天狗のおじいちゃんに聞いたことがある。

これはきつと、「麦わら帽子」というやつに違いない。このあたりは、夏にはハイキングコースらしいから、きつと、誰かが落とすていったんだらう。

そつと雪を蹴つて、宙へ浮かぶ。そのまま風につつて、モミの木のでつぺんにそつとつかまった。風に揺られてふわふわとしながら、飛ばされないように帽子を押さえる。

遠くに、海が見える。だーれも、いない。夏になったら、いったいの人が麦わら帽子をかぶつたり、水着つてやつを着て海であそぶんだつてさ。

夏つて、どんなだらう。わたしも、水着つてやつを着て、夏の海で泳いで見たいな。

冬の間、冷蔵庫とかにもぐりこんでたら、誰か夏の海に連れてつてくれるかな？

今度、こつそりためしてみようつと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0851ba/>

「夏の海ってどんなところ？」

2012年1月1日23時48分発行